

平成18年3月10日

平成17年度 第3回学校協議会 記録

大阪府立槻の木高等学校
教育政策部 山本 尚

日 時 平成18年 3月7日(土) 午後4時40分

場 所 槻の木高等学校 応接室

参 加 加治佐さん(兵庫教育大教授)
斉藤さん(大阪外国語大学講師)
吹田さん(槻の木高等学校PTA会長)
壺谷さん(元高槻市PTA協議会会長)
田鎖さん(京大セミナー取締役副社長)
浦岸さん(高槻市立第1中学校校長)
校長、事務部長、教頭、秋元、浅田、奥谷、山本

内 容 ① 学校長挨拶

本日は午後2時30分から、加治佐先生より「学校教育の改革の動向について」という内容で職員研修を行った。また、3月4日には卒業式があり、本校第1回の卒業式にふさわしいものであったと思っている。生徒たちやその保護者の皆さんからも喜んで頂けた。1・2年生は後期末考査の期間中で、さらには、3月2日には4期生の合格発表があり、本年度は2.19倍(526名)で志願者が増加した。第2回から第3回の学校協議会の間に、様々なことがあったが、今後の学校運営の方向に関するご意見を是非お聞きしたいと考えている。

② 司会より、第3回協議会の趣旨説明(教頭)

今年度の総括、ご提言及び来年度に関わるご提言を頂きたい。

③ 司会交代(壺谷さん)

壺谷さん

第3回の学校協議会、お集まり頂きありがとうございます。本日、前段の加治佐先生の研修に関わっても(ご参加頂いた先生には)ご意見を頂きたいと考えているが、まずは卒業式はどうだったのでしょうか。

斉藤さん

感動的な卒業式でした。子どもたちが生き生きしており、また立派な卒業式であった。さらには、日本の伝統的な部分においては、とても美しい式であると感じた。フィリピンでは卒業式はお祭りのような式しかないが、それはフィリピンの卒業式が「スタート」の式としてとらえているからである。

田鎖さん

生徒の表情がすばらしい。大きい声、輝いている顔。式には、荘厳な部分と明るい部分の両面があるのがよいと思う。

加治佐さん

30年前の自分自身の卒業式と同じであった。あのようなセレモニーについては、学校の文化として、特色づくりの一貫として位置づけることができると思う。2部の終了まで時間は少し長かったが、昔のセレモニーは「型」優先であり、槻の木の卒業式は「型」だけでなく、生徒側にたったものであるところがよい。

浦岸さん

一言で言って「見事」な式であった。スライドの時の生徒たちの笑いや歓声には学校に対する「誇り」を感じた。

吹田さん

卒業生の親の立場としても、感無量。挨拶では緊張したが、式ははじめのあのいい式だった。たくさんの保護者からもそのような声が聞こえた。

壺谷さん

みなさんから、すばらしい式というご意見でしたが、全く同感。次に先ほどの加治佐先生の研修において、「クラス分け」についての質問がありましたので、少しここで話題にしてみたい。

校長

3期生のクラス分けについては、学校全体で事前に話し合っていないが、学力向上のための工夫はないかというなかで考えたこと。学校裁量の範囲であると考えた。生徒・保護者に知らせた後、苦情は全くなく、むしろ応援のご意見を頂いた。4期生は従来に戻すものの、次年度研究を重ね、学力向上に有効、または有力であるとすれば、やる意志は大いにある。

田鎖さん

クラス分けは、その方法が最も重要で「学力向上」という観点からすると、中途半端なやり方ではないか。いろいろな配慮の結果とは思いますが、形だけすめた感がある。学力はスポーツと一緒に、ダイナミックに考えていけばどうか。また生徒に希望をとるのもよい。

教頭

組織体制の改革を行ったが、このことについて、ご意見はないか。

壺谷さん

今年度は協議委員の方それぞれがそれぞれの立場で学校に入り込んで頂き、学校協議会本来の目的に沿ったことができたように思う。それでは、新しい組織体制のことも含め、次年度に向けたご意見を伺いたい。

斉藤さん

習熟度によるクラス分けは教員にとっても効率がよいが、得意なことがアピールできる教育があればと思う。英語や数学の得意な子が目立たない教育は残念である。自分のパーソナリティを發揮できる学校は素晴らしいと思う。

田鎖さん

今年1年目の協議委員。声をかけて頂き、最初はお断りしようと思ったが、刺激的なテーマもあり、今においては本当に感謝している。最近の学校には、校長・教頭の姿勢などにおいて、大きな変化を感じる。京大セミナーにおいても槻の木受験者は今年90名と倍増した。槻の木に必要なのはズバリ進学実績であり、塾も数字がすべてであるので、今後お互い情報交換しながら伸ばしていきたいと考えている。

吹田さん

3年間、親としてまたPTA会長としてやってきた。このたび、後援会を立ち上げ、卒業生の保護者から一口1,000円で18万円超の寄付金が集まり、まさに槻の木に対する気持ちの表れかなあと思った。自分の子どもについては、学校の進学にかかわる取り組みに参加してきて、それなりの結果がでてきたので、槻の木のやっていることはまちがいないと感じている。さらに成果を上げるには、受験勉強のスタートを早くする取り組みがあればと思う。

壺谷さん

3年間のPTA会長はなかなかありません。本当にご苦労さまでした。これからも後援会会長として槻の木にからんでいってほしいと思います。

浦岸さん

中長期の目標を考えるべき時期にきている。たとえば、クラス分けでは、習熟度以外に、目的別に分ける考え方もある。例えば、看護系医療系大学進学コースのようなクラスを形成してはどうか。目的意識の強い生徒に強いサポートをする学校であればと考える。

加治佐さん

本日、研修を槻の木でやれて、ようやく貢献できた感がある。今日の研修では、教職員の方々はよく分かっておられると感じた。これは、改革が学校になじんでおり、また改革が間違っていないという実証になるのではと思う。いい意味で反対があるのは刺激があっいい。朝日新聞の件は、記事に明確な主張がなく、むしろ本校に好意的にとらえる人が多いのではと思う。また、組織体制の改革に関して、学校の任務の洗い出しを行っているが、ここまでされている学校はほとんどないだろう。これがモデルケースとなる。

吹田さん

槻の木が頑張れば頑張るほど、ほかの学校も頑張っしてほしいというのが保護者の本当の気持ちです。

壺谷さん

本日は、また今年度、本当にありがとうございました。来年度の協議会については未定のようなのですが、今後とも槻の木高校をよろしく願います。